

- g 教育研究以外の業務が中心だが、教育研究も行う
h その他、上記の選択肢が当てはまらないと思われる場合は、差し支えなければ、具体的にお書き下さい。[→記入欄あり]

(5) あなたのポストに、再任の制度はありますか。

- a 再任の制度がある b 再任の制度はない

(6) 上記で「a ある」と答えた方にお尋ねします。

①再任の回数に制限はありますか。ある場合は再任回数の限度をお知らせください。

- a 制限はない。
b 制限がある。→再任回数の限度は [] 回

②再任後の任期は何年ですか。

- a 1回目の再任後の任期→ [] 年
b 2回目の再任後の任期→ [] 年
c 3回目の再任後の任期→ [] 年
d 4回目以降の再任後の任期→ [] 年

③再任の条件は明文の形で示されていますか。

- a 示されている b 示されていない

(7) あなたは、現在の部局において、すでに再任されたことがありますか。

- a ある b ない

(8) 上記で、「a ある」と答えた方のみご回答ください。

①現在までに何回再任されましたか。

- a 1回 b 2回 c 3回以上

②再任の際には、研究業績についての審査が行われましたか。

- a はい b いいえ

③上の質問で「はい」とお答えになった方にお尋ねします。その審査は、いかなる機関によって行われましたか。

- a 部局教授会(あるいは研究科委員; 教授会のない部局では意思決定機関である会議)、もしくは、それらの下に設置された再任審査委員会(あるいは選考委員会)等の正式機関によって
b 専攻等(部局より小さい単位)の正式機関によって
c 小講座、分野等最小単位で、複数の教員の合議によって
d 小講座、分野等の教授によって
e その他[→記入欄あり]

(9) 任期期間中に、病気・出産・育児・介護等で、長期休暇・休業を取った場合の任期の扱いについて、明示されていますか。

a 明示されている(→下記イ、ロから選択してください)

- イ その期間は、任期から除く
ロ その期間も、任期から除かない

b 明示されていない

(10) 上の質問で「任期から除かれない」、もしくは「明示されていない」と答えた方にお尋ねします。このことで不安を感じたことはありますか。

- a 不安を感じた事がある b 不安を感じた事はない

- (11) あなたが、このポストを選択した理由は何ですか。(複数回答可)
- a 非常に興味のある研究分野であったため
 - b パーマネントなポストに付くためのつなぎとして
 - c 最先端の研究に集中できる環境
 - d 他の選択肢がなかった
 - e 以前の指導教員や上司に勧められたから
 - f その他 [→記入欄あり]
- (12) 任期付きの職であることで、社会的に不利益を被ったと感じたことはありますか。
- a ない
 - b ある
- (13) 上記で「b ある」の場合、どのような不利益ですか。
- a ローンを組めなかった
 - b その他 (差し支えなければ、具体的にお書き下さい) [→記入欄あり]
- (14) あなたが、現在のお仕事について、感じていることはどれに該当しますか。(複数回答可)
- a 他の業務から解放されて研究に専念できるので、ある程度満足している
 - b 現在の研究課題は、任期中には遂行できない可能性がある
 - c 期間が限られているのに、次の理由のために十分に研究ができない
 - d 任期満了後の職がはっきりしないので、不安である
 - e 周囲から、独立した研究者として認めてもらえない
 - f 研究に関して、自分の意見を上げてもらえない
 - イ 教育の負担が大きい
 - ロ 研究・教育以外の業務が多い
 - ハ 予算が足りない
 - ニ 人手が足りない
 - ホ その他 (差し支えなければ、具体的に) [→記入欄あり]
 - g 教育や運営に関して、自分の意見を上げてもらえない
 - h その他 具体的にお書き下さい。 [→記入欄あり]

3. 任期なしの方にお尋ねします。あなたと同じ職務の人の、新任の方の雇用形態はどうなりますか。

- a 今後は任期制で雇用される
- b これまで通り、任期なしで雇用される
- c 決まっていない
- d 知らない
- e その他 [→記入欄あり]

[2] すべての助教の方にお尋ねします。

1. あなたの所属する部局(専攻、研究科、研究所等)で、助教の職務に関して明確な規定はありますか。

- a ない
- b あるかどうか知らない
- c ある

2. 上記で、「c ある」とお答えになった方にお尋ねします。

- (1) 大学院生の指導教員になれますか。
 - a なれる
 - b なれない
- (2) 学位審査の主査になれますか。
 - a なれる
 - b なれない
- (3) 学位審査の副査になれますか。
 - a なれる
 - b なれない
- (4) 授業を担当できますか。
 - a できる
 - b できない
- (5) 各種委員会の委員には
 - a なれる(させられる)
 - b なれない(させられない)
- (6) その他、よろしければ具体的内容をお書き下さい。[→記入欄あり]

3. あなたの意見を大学運営(専攻や研究科、研究所等の)に反映させる仕組みについてお尋ねします。

- (1) 教員会議等に関してお尋ねします。あなたの所属部局等(大部局の場合は、専攻等のより小さな単位に置き換えてお答え下さい)には、意思決定機関たる会議がありますか。
 - a ある
 - b 教員会議(名称に関わらず)はあるが、意思決定機関ではなく報告
 - c 教員会議の類はない
 - d 知らない
 - 事項のみの会議である

(2) 上の質問で「c 教員会議の類はない」以外のお答えをくださった方のみお答えください。

- ①助教は、部局等の意思決定機関たる会議に出席して意見を表明することができますか。
 - a 出席・発言・票決ともにできる
 - b 出席・発言はできるが票決には参加できない
 - c 出席はできるが発言・票決ともに認められていない
 - d 出席自体ができない。
 - e 助教が出席できる会議はあるが、それは意思決定機関ではなく報告事項のみの会議である
 - f 知らない
- ②任期付きポストの助教は部局等の意思決定機関たる会議に出席できますか。
 - a 任期なしの助教と同じ権利を持って参加できる
 - b 部局の助教ポストは全てが任期付きだが、講師(あるいは准教授)と同じ権利を持って参加できる
 - c 助教は任期の有無に関わらず会議に参加できない
 - d 助教のうち、任期付きポストの者だけが会議に参加できない
 - e 助教のうち任期付きポストの者は、会議に出席はできても発言や票決の権利について任期なしの助教に比して制限がある
 - f 任期付きポストの助教が出席でき

る会議はあるが、それは意思決定機関ではなく報告事項のみの会議である

る
g 知らない

(3) 助教と大学運営との関わりを感じていることはどれに該当しますか。

- a 会議で時間を取られるよりは、研究時間を確保したいので、自分が参加できる会議は必要ない
- b 東北大学の研究・教育に携わる者と

- して、その意見を述べる場は必要だと思う
- c その他、具体的にお書き下さい。[→記入欄あり]

(4) 部局長の選出方法と助教の立場に関して下記のどれに該当しますか。

- a 部局長は選挙で選ぶ。その選挙では、助教全員に選挙権がある
- b 部局長は選挙で選ぶ。しかし、その選挙において、任期の有無に関わらず助教には選挙権がない
- c 部局長は選挙で選ぶ。しかし、その選挙において、任期付きポストの助教には選挙権がない

- d 部局長は選挙で選ぶ仕組みになっていない
- e 知らない
- f その他（選挙はあるが、選挙権に職位および任期の有無以外に関わる制限がある）具体的にお書き下さい。[→記入欄あり]

4. 現在の給与について、お尋ねします。(複数回答可)

- a 給与が安くて暮らしていけない
- b 教授や准教授と比べて安すぎる
- c 仕事の多さや重さに比べて安すぎる
- d 民間の研究員などと比較して、大学の助教の給料は安すぎる

- e 助教は、旧助手の時代に比べて明確に責務が増えたのだから、相応の待遇改善があるべきである。
- f その他、ご意見があればお書き下さい。[→記入欄あり]

5. 任期制についてお尋ねします。

(1) 助教に限らず、運営費交付金で雇用される大学教員の任期のあり方として望ましいものはどれだと思いますか。

- a 全員が任期なし
- b 全員が任期あり
- c 現在大学当局から提案されている、助教及び准教授の一部はノンテニュ

- アというテニュア・トラック制
- d その他(具体的にお書き下さい)[→記入欄あり]

(2) あなたの所属する研究室や教育担当者などのひとつの集団の中で、任期制の人と任期無しの人とが、混在して研究や教育の業務を行っていますか。

- a いいえ
- b はい

(3) 上記で「b はい」とお答えになった方にお尋ねします。以下のどれに該当しますか。(複数回答可)

- a 任期制の人と、そうではない人の任務は明確に別れているので、特に問題を感じたことはない
- b 余計な気を使う等、人間関係がギクシャクとすることがある

- c 任期無しの方は過渡的で、いずれ、みんなが任期制になるので、多少の人間関係の軋轢は、仕方ないと思う
- d その他、何か、感じていることがあれば、お書き下さい。[→記入欄あり]

[3] 今春、旧助手の職から助教の職に移行された方にお尋ねします。

1. 助手から助教に移行する際に、特に問題はなかったでしょうか。(複数回答可)
 - a 特に問題はなかった
 - b どのようになるのかがなかなかはっきりせず、不安になる時期があった
 - c 移行する過程で、不当な扱いを受けた
 - d その他、ご自分だけでなく、周囲の方でも、何か問題になったようなことがあれば、お書き下さい。[→記入欄あり]
2. 助教になったことで、これまでと変わったことはありますか。
 - a 現在のところはまだない
 - b 具体的に変わったことがある。(差し支えなければ、お書き下さい) [→記入欄あり]
3. 大学の運営一般や部局や専攻の運営について、ご意見があればお書き下さい。[→記入欄あり]

[4] 差し支えなければ、お答えください。

1. あなたの性別は
 - a 男性
 - b 女性
2. あなたの年齢は
 - a 20歳代
 - b 30歳代
 - c 40歳代
 - d 50歳代
 - e 60歳代

以上

長大なアンケートへのご回答をいただき、まことに有り難うございました。心より感謝いたします。

東北大学職員組合では、今後、あなたの貴重なご回答を含め、全ての回答を統計処理した上で助教の待遇改善に関する団体交渉において組合側資料として活用させていただきます。

また、まだ組合に加入されていない方は、ぜひともご加入の申し込みをくださるよう、心よりお待ちしております。加入申込書のダウンロードとその送り先、および加入に関するお問い合わせについては、下記URLをご覧ください。

<http://tohokudai-kumiai.org/2>

また、加入やこのアンケートに関する電話でのお問い合わせは、東北大学職員組合本部書記局(022-227-8888 または内線(片平) 5029) へお寄せください。